

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS

The Society of Japanese Women Scientists



No.126 2020.3

I. 2020年新春に寄せて

2020年は、オリンピックの年です。しかも自国開催で、日頃スポーツに縁のない私でもワクワクしてきます。生きている間に2回の東京オリンピックを見る機会に恵まれた幸運を喜びつつも、今回は真夏の開催ですので、どれくらい観戦できるか…まずは、観戦するための体力をつける必要があります。

新体制になって9か月余りが経ちましたが、本会が抱える課題を整理するのが精いっぱい、なかなか活動に繋がっていないというのが実感です。前号のNews (No.125) で掲げた4つの活動の経過報告です。「1. 各ブロックでの活動活性化：地域でのネットワークを構築して、会員の参加しやすい活動を充実し、地域から女性研究者活躍推進活動の活性化を目指す」では、本号で紹介している「2019年度 例会・新春シンポジウム」において、「分野を超えた女性研究者ネットワークの構築」という、この活動目的に合致したイベントを企画して下さいました。九州・中国・四国・沖縄ブロックの理事のご尽力により、内容も充実していて、若い方々も参加され、大変盛会でした。2020年の最初のイベントとして相応しく、ブロック活動の活性化の一翼を担って頂けたと思

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 近藤 科江

ます。他のブロックでも、交流の場を持って頂き、ネットワーク構築を活性化して頂きたいと思えます。ブロックの再編成は、理事選挙が行われる来年2月に向けて、着実に準備をする予定です。「2. HPの充実」は、HP担当理事が新しいHPのデザイン・内容を考え、より見やすい、活用し易いHPへの刷新を来年度中に実施することを目標に頑張っておられます。「3. 法人会員を募り、安定した財政基盤づくり」に関しては、募集内容・法人リストの作成を行っています。HPやパンフレットでの広報も計画しています。「4. 自然科学分野の学会における男女共同参画関連組織と連携」は、まだ現状調査の準備を開始したところですが、来年度は具体的な議論を始めたいと思えます。



本会は、研究活動に直結した学会ではないため、活動の優先順位が低くなりがちで、時間と気持ちに余裕がないと実質的な活動に結び付かず、「余計な仕事をこなす」という活動になりがちです。しかし、リケジョ育成のために講演に行った高校で、女子高校生にエールを贈ったつもりが、自分が励まされていることに気が付きます。このように、本会の活動のなかで、誰かのためと思ってした行動が、実は自分のためだったと気づかされることもしばしばです。「自分の経験したことを基に、より良い環境作りの提言ができれば、次世代の女性研究者の環境は良くなる」「女性研究者を取り巻く環境が良くなれば、研究環境全体が良くなる」「今、自分ができることは何か？」モチベーション高く、活動を広めていければと思っています。

目次

I. 2020年新春に寄せて	1
II. 2019年度 例会・新春シンポジウム	2
III. 理事会便り	6
IV. 理事会からの報告・連絡	8
V. 60周年記念事業の報告	8

2019年度 日本女性科学者の会例会・新春シンポジウム報告

日時：2020年1月12日(日) 13:00~19:00

場所：九州工業大学戸畑キャンパス百周年中村記念館

出席者：37名

テーマ：分野を越えた女性研究者ネットワークの構築

プログラム

《司会：小川 由起子（長崎国際大学、SJWS理事）》

1. 開会の辞 近藤 科江（東京工業大学、SJWS会長）

2. 特別講演

座長：城崎 由紀（九州工業大学、SJWS理事）

(1)九州工業大学における男女共同参画の取り組み

安河内 恵子（九州工業大学副学長、男女共同参画・社会連携担当）

(2)九州における女性研究者ネットワークの構築：Wキュービック

稲田 幹（九州大学中央分析センター）

(3)九州歯科大学の現状と同窓会女性部会「リーフの会」の活動紹介

角田 聡子（九州歯科大学歯学部地域健康開発歯学分野）

福原 正代（九州歯科大学歯学部総合内科学分野、SJWS理事）

3. 一般講演（ショート・プレゼンテーション&ポスターセッション）

4. ポスターセッション

ポスタータイトル

(1)オペランド水素顕微鏡による金属表面の水素観察

(2)天然高分子を用いた無機ナノシート液晶構造の固定化

(3)キトサン-シロキサン複合体ヒドロゲルの創製

(4)抗菌薬担持有機-無機複合体薄膜の創製

(5)セリウムイオン共存下での炭酸カルシウムの合成

(6)異なるケイ素化合物に対する骨芽細胞様細胞の応答性

(7)らせん型分子に組み込んだレアアースの発光体開発

(8)エボラウイルスエンベロープへのホスファチジルセリン集積に関与する宿主スクランブラーゼの同定

(9)適応的微小管動態を制御する分子シャペロン・ α B-crystallin/HSPB5

～抗重力筋が繋ぐ細胞-身体の動的不安定性健康戦略

(10)Chronic systemic exposure of Lipopolysaccharide from *Porphyromonas gingivalis* induces bone loss and memory decline in middle-aged mice

(11)*Porphyromonas gingivalis* infected Leptomeningeal Cells Reduce Synapses Proteins in Primary Cultured Neurons

(12)RAGE Upregulation in Cerebral Endothelial Cells Mediates Amyloid β influx after *Porphyromonas gingivalis* Infection

(13)シアル酸結合レクチン（SBL）の生物活性について

(14)異常メチル化遺伝子の電気化学的検出による口腔がんスクリーニング



司会
小川 由起子



座長
城崎 由紀

【新春シンポジウム特別講演要旨】

〈特別講演①〉

「九州工業大学における男女共同参画の取り組み」

九州工業大学・副学長・男女共同参画・社会連携担当 安河内 恵子先生

先生は九州大学大学院文学研究科のご出身で、ご専門は社会学、特に女性の就業と少子化に関する都市間比較などの社会構造に対する研究を行われていました。現在は、九州工業大学の副学長として、男女共同参画・社会連携担当を務められ、九州工業大学において様々な取り組みを展開されています。当日の講演では、2017年に採択された文部科学省の補助事業を利用し、女性教員増員かつ女性教員の研究力upを目指して、九州工業大学でどのような方策を行ってきたかという内容について紹介されました。



【講演要旨】

九州工業大学の女性教員比率は2016年10月時点では8.0%であり、工学系大学である点を差し引いても、あまり高い比率ではありませんでした。2016年に男女共同参画推進室が設置され、まずはライフイベント（育児・看護・介護）経験のある女性教員へのヒアリングにより、抱えている課題を抽出することから開始しました。2017年には、文部科学省の補助事業（平成29年～令和4年）に採択され、この補助事業を活用しつつ対応策を展開しているところです。女性研究者に対しては、女性限定公募の実施、在宅勤務、支援研究員配置支援などを設定し研究力向上に向けての活動を進めています。

また、「夏期学童保育」「土日入試業務困難者の把握と対策」「介護セミナー開催」など、全職員に対しても様々な展開をしています。

男女共同参画活動は、活動内容、範囲が幅広く、対象によって対応策も多岐にわたりますが、誰もが個性と才能を十分に活かせるように、今後も活動を進めていきたいと考えています。

〈特別講演②〉

「九州における女性研究者ネットワークの構築・Wキュービック」

九州大学・中央分析センター・准教授 稲田 幹先生

先生は九州大学大学院工学府のご出身で、現在は九州大学中央分析センターにて准教授を務められています。材料の結晶・配位構造や表面状態に着目され、環境浄化、エネルギー、エレクトロニクス関連のセラミックス粒子開発を目指し活発に研究活動を進められています。当日は、出産・育児等と並行しながらのこれまでの先生の研究人生や西日本の女性研究者を中心に活動してきたWest Woman Wind（W3・ダブルキュービック）に関してご紹介いただきました。



【講演要旨】

女性研究者ネットワークWest Woman Wind（W3・ダブルキュービック）は、九州を中心とした西日本の女性研究者が10年程前に作った会であり、女性研究者がライフイベントをこなしつつ、いかにして積極的に研究を継続していくかを考える場としてきました。年1回、理工系女性研究者シンポジウムを開催し、メンバー間の交流を深めると共に、産学官から講演をして頂き、次世代にはたらく女性のロールモデルのひとつとして、女性研究者の様々な研究人生を紹介してきました。長く続けていく中で、メンバーの立場やそれらを取り巻く環境変わっていき、どのような形で今後もこの会を運営していくのが、目下の課題です。

女性研究者は女性だけで支えるものではなく、家庭がある人だけの問題でもありません。ダイバーシティを目指すうえで、老若男女が相互に支えあえるようなシステム構築ができればと思います。

〈特別講演③〉

「九州歯科大学の現状と同窓会女性部会“リーフの会”の活動紹介」

九州歯科大学・歯学部・教授 福原 正代先生

九州歯科大学・歯学部・助教 角田 聡子先生

先生方は歯学領域における臨床および研究の両面でご活躍されています。福原先生は、九州大学医学部のご出身で、現在九州歯科大学歯学科では唯一の女性教授として、研究室の運営も行われています。角田先生は、九州歯科大学のご出身で予防歯科をご専門として臨床および研究に邁進されています。当日は、九州歯科大学の女子学生や女性教員に関する情報や同窓会の女性部会の活動についてお話し頂きました。

【講演要旨】

九州歯科大学は全国歯学部のうち唯一の公立大学法人で、学生の男女比は工学系と比較すると歯学科で約半数、口腔保健学科はほぼ100%と大変高くなっています。大学院もかなりの割合で女子学生が勉学に励んでいます。一方、教員に関しても女性比率は30%程度と高い比率ですが、やはり職位があがるにつれて、女性の比率は著しく低下しています。大学機関としては、人権委員会という場で、男女共同参画に特化させるのではなく、各種ハラスメントや人権侵害について対応しているところが特色です。

より女性が中心となって行う活動の場が、同窓会の女性交流委員会「リーフの会」です。ここでは、女性間での情報交換や交流会を行っています。大学が存在している、福岡県のみならず、県外においても交流会を行い、学術講演等では託児所も設けて、より多くの女性が参加できるような環境作りを進めています。



2019年度 日本女性科学者の会例会、新春シンポジウム開催報告

中国・四国・九州・沖縄ブロック長 小川 由起子（長崎国際大学薬学部）

令和2年1月12日(日)、2019年度 日本女性科学者の会例会、新春シンポジウムが、九州工業大学戸畑キャンパス百周年中村記念館で開催されました。参加者37名のうち、学生が14名、その中には留学生もおり、若い研究者が目立つ活気あふれる会になりました。

今回は【分野を越えた女性研究者ネットワークの構築】というテーマで、中国・四国・九州・沖縄ブロックが担当し、若手が意欲をもって参加しやすいように、ポスター発表の場を企画しました。

特別講演では、女性研究者のネットワーク構築において、各方面でご活躍されている先生方にご登壇いただき、女性研究者を取り巻く問題や現状、その対応策など、具体的で大変興味深いお話をいただくことができました。

ポスターセッションでは、学部学生から若手教員、ベテラン教員にいたるまで、様々な分野から13演題の発表があり、女性研究者だけではなく、男性研究者も集まりました。ポスターセッションに先立ち、ショートプレゼンテーションによる自己紹介と研究アピールを全員が行い、その後ポスターの前で討論を行いました。専門的なディスカッションから、研究を進める上での苦労話やアドバイス、共同実験に関することなど、

どのパネルも絶え間なくディスカッションが続きました。留学生の演題も3演題あり、女性科学者のグローバルネットワークづくりに力を注いでいらっしゃる先生の展望なども伺うことができました。会場では、コーヒーや菓子の提供（遠方より来られた先生方からの手土産含）もあり、会員の交流も和やかに行われました。

懇親会は百周年中村記念館1階のカフェテリアに場所を移し、19時まで和やかに行われ、閉会となりました。北九州での開催は初めてでしたが、城崎理事と城崎研究室の皆様をはじめ、ブロック会員の皆様のご協力のもと、力を合わせて、盛会のうちに会を無事終了することができました。最後に、2019年度日本女性科学者の会例会、新春シンポジウム開催にあたり、ブロック会員をはじめたくさんの方々にご協力いただきましたこと、大変感謝いたしております。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年も皆様の研究がより一層発展し、実り多い1年になりますようお祈り申し上げます。



❄️ 総務委員会からの連絡 ❄️

「一般社団法人日本女性科学者の会 第7回総会および第24回奨励賞・功労賞贈呈式」が2020年5月24日(日) 学士会館で開催されます。多くの会員の皆様が参加されますように、よろしく願い申し上げます。

理事会便り ブロック長挨拶

「北海道・東北ブロックの活動」

東北大学金属材料研究所 梅津 理恵

現在、北海道・東北ブロックの会員数は33名（北海道11名、東北22名）となっております。以前、東北支部として活動を行っていた、「東北支部だより」と「新春懇親会」がこの数年の間途絶えておりましたが、今年度復活させるべく、再開いたしました。まず、2020年1月25日(土)にホテルレオパレス仙台のイタリアン・レストラン、「トラットリア・クチーナ・オランジェリー」にて新春懇親会を開催しました。当日、欠席者が2名出てしまい、実際の出席者は5名とささやかではありましたが、おいしいランチを食べながら近況報告や今後の活動について密な話し合いを行いました。東北、なかでも仙台は「学都仙台」と呼ばれているだけに、多くの大学が存在しているにもかかわらず、なかなか会員数を増やすことが出来なしております。会員増に向けた取り組みとして、仙台近辺の私大などをターゲットにした研究会等の企画をしてはどうか、などの意見がありました。また、「北海道・東北ブロックだより」の3月発行に向けて原稿を募っているところです。北海道・東北ブロックの会員にメール配信と、女性科学者の会HPでの掲載を予定しております。今後とも引き続き宜しくお願いします。

「関東ブロックの活動に新風を」

東京工業大学 生命理工学院 近藤 科江

今年度15人が新規加入し、270名超の本会最大数の会員を擁するブロックです。SJWS全体の活動を活発にするためにも、関東ブロックが積極的に活動する必要があります。今年度は、10月に塩満典子会員による勉強会「競争的資金獲得のための談話会～採択される/されない提案書の差はどこに？」を婦選会館で開催し、会員の研究費獲得を推進する活動を行いました。また、12月に近藤が鷗友学園女子中学高等学校で、1月には松井泰子会員が県立大和高等学校で講演をし、リケジョ育成に取り組みました。来年度は、更に活動を広げて、会員の自主的な活動を募集し、関東ブロック内の地

域に密着した活動や、研究分野ごとの、または分野横断的なネットワーク構築の活動を進めていきたいと考えています。女性研究者の数はまだまだ少なく、情報が少ないために、トラブルに巻き込まれたり、解決できずに悩んだりすることも少なくないと思います。今後も各種交流イベントを企画しますので、ネットワーク構築に活用して頂きたいと思います。また、新たな風を吹かせるために、積極的な活動のご提案をお待ちしております。

「東海・中部・北陸ブロック活動報告」

岐阜薬科大学 永澤 秀子

東海・中部・北陸ブロックは中部地方を中心に40名余りの会員を擁しています。昨年年初には、本ブロックの荒木陽子会員が理事選挙管理委員長を務めました。これまで現ブロック理事を中心に主にSJWS運営に参加してきましたが、そろそろ世代交代のための交流のあり方を模索しているところです。そこで、H27年度から続いている「清流の国輝くギフジョ支援プロジェクト」(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ連携型に採択された岐阜市の国公立大学と企業の連携プロジェクト)の各種イベント情報をブロック会員にも共有するなど、会員交流の機会を増やしていきたいと思っておりますので会員の皆様におかれましても、地域や所属機関の関連イベントなどの情報をお寄せいただき、また積極的にご参加くださり、活動への一層のご協力をお願いします

「関西ブロック長ご挨拶および活動報告」

愛知大学地域政策学部 功刀 由紀子

2019年度より、関西ブロックは理事の交代に伴い新体制となりました。稲田あかり氏(先端医療研究センター)、岡村恵美子氏(姫路獨協大学)、功刀由紀子(愛知大学)の3名です。宜しくお願い致します。

今年度は、新理事間でのブロックに関する名簿や会費納入等の情報共有から始めています。今後、関西ブロック会員の皆様には、SJWSに対するニー

ズやブロック活動に関するご意見などをアンケートにより収集したいと準備致しております。積極的なご意見やご提案をお願い致します。収集致しましたご意見や要望に基づき、今後のブロック活動方針を策定して行きます。また、ブロック内の大学における男女共同参画室とホームページのリンク等による情報交換なども、ブロック活動の展開に必要であろうと考えております。

「中国・四国・九州・沖縄ブロック活動報告」

長崎国際大学薬学部 小川 由起子

私たちのブロックは、中国地方から沖縄まで広範囲におよぶブロックで現在会員数は、32名です。広範囲のためブロック会員が一同に集まることは難しいのですが、各県に代表を置き、楽しみながら

活動の幅を広げていきたいと考えています。今年は、一昨年、昨年に続き、長崎県佐世保市の少年科学館を拠点に夏～冬に合わせて全5回の子ども科学教室を開催しました（共催事業）。活動費は、学長裁量経費を応募することで捻出しました。子供たちの探求心から日々たくさんのご意見を学ばせていただいております。面白いアイデアやご意見等ございましたらぜひお寄せください。共同研究など、ひょんなところから研究の幅も広がるかもしれません。女性研究者の輪を広げていきましょう！共催や後援が必要な方がいらっしゃいましたら遠慮なくお知らせください。

ブロック会員の皆様、今後ともブロック活動にご協力いただきますようお願いいたします。本年も幸多き年でありますよう、お祈り申し上げます。

理事・監事役割分担表			
所属ブロック		氏名	役職、委員会
関東	◎	近藤 科江	会長、賞選考、内閣府連携会議、JNWES
		跡見 順子	理事、広報・渉外
		石川 稚佳子	理事、総務、国際婦人年連絡会
		板倉 明子	理事、学術誌編集、男女共同参画学協会連絡
		小杉 尚子	理事、総務、HP・NEWS編集
		澤口 聡子	理事、学術誌編集
		中山 榮子	理事、男女共同参画学協会連絡
		西本 右子	理事、財務・名簿
		玉井 幸恵	理事、総務、HP・NEWS編集
		長谷川 美貴	理事、総務、賞選考
		濱田 奈保子	理事、倫理
		後藤 典子	理事、賞選考
北海道・東北	◎	梅津 理恵	理事、財務・名簿、賞選考
		小川 美香子	理事、HP・NEWS編集
		本間 美和子	理事、広報・渉外
東海・中部・北陸	◎	永澤 秀子	理事、学術誌編集
		清島 真理子	理事、広報・渉外、倫理
		浜田 恵美子	理事、財務・名簿
関西	◎	功刀 由紀子	理事、財務・名簿
		稲田 明理	理事、財務・名簿
		岡村 恵美子	理事、学術誌編集
中国・四国・九州・沖縄	◎	小川 由起子	理事、学術誌編集
		城崎 由紀	理事、財務・名簿
		福原 正代	理事、総務
関東		宮本 霧子	監事、国際婦人年連絡会
		大倉 多美子	監事、JNWES、国際婦人年連絡会

(◎：ブロック長) (ボールド：委員長)

【財務・名簿委員会】

今年度初めて名簿と財務を一体で担当しています。苦勞するのは、会員の異動が多いこと。登録情報から変更があった場合は、どうぞ list@sjws.infoまでご連絡をお願いします。

【学術誌編集委員会】

日本女性科学者の会学術誌では、様々な分野からの総説、原著論文、コラム、活動記録などの投稿を募集しています。学部学生、大学院生も投稿可能。J-STAGE登載、「早期公開」可能。投稿をお待ちしています。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sjws/char/ja/>

【HP・NEWS 編集委員会】

HPのリニューアルを計画しております。これまで以上に、皆様への迅速な情報提供ができるようHP・NEWS発行に務めて参りますので、ご支援の程お願いいたします。

【賞担当委員会】

令和元年度第3回理事会（2019年12月8日）にて外部評価を受ける奨励賞候補者を選定し、功勞賞についても候補者が決定いたしました。奨励賞の受賞者は、今後の外部評価の結果を受けて次回の理事会にて決定する運びになっております。

【JNEWS委員会】

JNWES (Japan Network of Women Engineers and Scientists, HP: <http://www.jnwes.org/>) は、本会と女性技術者フォーラム、日本女性技術士の会、日立技術士会活動グループ「チーム・技魔女」を含めた4団体で構成される特定非営利活動法人です。国際女性技術者科学者会議(ICWES)に代表を送り、日本から公式参加している唯一の団体です。2019年度は、カトマンズ（ネパール）でのICWESアジア地域のネットワークICWES-APNN会議で中心的な役割を果たすと共に、国内の中高等学校への講師派遣に取り組み、活発に活動しています。

V. 60周年記念事業の報告

2018年度におけるSJWS創立60周年記念事業に、多数の皆様から1,688,000円のご寄付を頂きました。2019年3月31日をもって、60周年記念事業と銘打った寄付募集は終了させて頂きました。ここに、御篤志をお寄せ頂きました皆様のご氏名一覧を掲載致しました。心より御礼申し上げます。

(敬称略、50音順)

500口 大倉 多美子
 100口 功刀 由紀子
 25口 石川 稚佳子 佐々木 政子
 10口 大島 範子 永澤 秀子
 5口 阿部 道子 猪俣 芳栄 梅津 理恵 大谷 直子
 大富 美智子 小川 由起子 角谷 治子 懸橋 理枝
 窪川 かおる 栗原 和枝 小浪 悠紀子 齋尾 恭子
 清水 由紀子 鈴木 純子 武 洲 田中 富士枝
 玉井 幸恵 橋本 久子 浜田 恵美子 樋田 京子
 福原 正代 宮城 妙子
 4口 匿名寄付
 3口 荒木 陽子 佐宗(野村)裕子 藤田 禮子 山縣 ゆり子
 山田 恵子
 2.5口 岩崎 民子 近藤 科江
 2口 吉祥 瑞枝 キム・ミンズ 諏訪 佳子 仙洞田 洋子
 友村 美根子 西本 右子 服部 梓 平井 里香
 1口 飯田 紀子 伊藤 裕子 今栄 東洋子 大住 伴子
 大隅 正子 大矢根(松浦)綾子 國井 秀子 玄番 央恵
 斉藤 久子 齋藤 結花 佐藤 久子 佐藤 美由紀
 相馬 央令子 宗宮 仁美 田崎 和江 寺町 ひとみ
 中野 恭子 南谷 晴子 沼野 利佳 坂内 博子
 平野 浩子 本間 美和子 マシー・ワイルダー 吉田 絵里

(前会長 功刀 由紀子)

編集：玉井 幸恵・小川 美香子
 小杉 尚子・廣瀬 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒 226-8501

神奈川県横浜市緑区長津田町 4259

東京工業大学 生命理工学院 近藤研究室内

TEL/FAX 045-924-5800

E-mail: sjws-office@sjws.info